

— Chain Rehabilitation
継ぎ目のないリハビリを届ける



札幌西円山病院 リハビリテーション部

リハビリテーション部の構成

✓ 5つの科，総勢 170名超のスタッフ

リハビリテーション部

作業療法士：2名

理学療法科

理学療法士：74名

作業療法科

作業療法士：53名

言語療法科

言語聴覚士：39名

臨床心理科

臨床心理士：39名

活動支援科

レクワーカー：2名
音楽療法士：3名
健康運動指導士：3名
作業療法士：1名（兼任）



リハビリテーション部 スタッフ支援

✓ 長くキャリアを支援

- ・子育て支援（産休・育休取得のサポート，院内保育所）
- ・多彩な教育的活動
- ・後輩育成，外部講師，研究活動，留学制度 etc.の支援



臨床活動 —病棟専従制—

回復期病棟チーム（リハビリテーションセンター）

- 在宅復帰を目指し集中的なリハサービスを提供（2019年度リハ提供単位数7.1単位/日）
- 365日体制(PT・OT・ST)、シフト性

神経内科病棟チーム（神経内科総合医療センター）

- 短期入院からターミナルまで専門性の高いリハビリを提供
- 365日体制(PTのみ)、評価時の早出出勤(OT)

一般内科・療養チーム

- sub-acuteから終末期まで幅広い患者層を幅広い技術で支援

訪問リハビリ

- 回復期および神経内科病棟を退院された患者さんを中心に在宅生活を支援

施設リハビリ

- 生活リハビリを提供し、生活を送りながら心身機能やADL維持を支援



リハビリテーション部の教育

✓ 新人研修

入職後、3か月程度の新人研修プログラムを履修。

✓ 年次別教育カリキュラム

- 初期研修（0～1年）：研修療法士（スペシャリスト） 患者さんに独立して対応できる能力を身に付けます
- 中期研修（2～5年）：指導療法士（ジェネラリスト） 病棟とのチーム医療を推進できる能力を身に付けます
- 後期研修（6～10年）：管理療法士（プロフェッショナル） 組織を取りまとめていける能力を身に付けます

✓ 学会発表

リハビリテーション・ケア合同研究大会・日本慢性期医療学会・全国回復期リハ協議会研究大会・
日本慢性期リハビリテーション学会・日本作業療法学会・北海道作業療法学会・北海道病院学会・
日本呼吸ケア・リハビリテーション学会・札幌市病院学会・溪仁会グループ研究発表会など（2019年度実績）

✓ 国内留学制度

現職のまま、国内の大学・大学院に入学し、修士・博士課程を学べます。入学金や授業料などは全額負担いたします

経験年次別教育カリキュラムスキーマ

初期研修（0～1年）：研修療法士

Basic Course

- ① 共通プログラム（0～1ヶ月目）
- ② 基礎プログラム（2～5ヶ月目）
- ③ 体験プログラム（0～1ヶ月目）

臨床見学型方式
模擬体験型方式

中期研修（2～5年）：指導療法士

Advance Course

- ① OJT（回復期・医療療養・介護療養・神経内科・訪問・通所）
- ② 症例報告（2年目）
- ③ 研究発表（3年目）
- ④ 学会発表（2年目：地方学会 3年目：全国学会）
- ⑤ 後輩指導（3年目：各プログラム講師）
- ⑥ 学生指導（4年目：臨床実習指導者）
- ⑦ 専従病棟リーダー（5年目）

クリニックラックアップ方式
屋根瓦方式

インターン指導

リハマネジメント

後期研修（6～10年）：管理療法士

Master Course

- ① 出向
- ② 職能団体での専門プログラム（認定・専門療法士）
- ③ 大学院での高等教育研修

地域の中での専門性の確立

管理能力の学習

基礎的・汎用的

リハビリテーション講習会
ワークショップ
ケーススタディ
ラウンド（SV）
各種勉強会・研修会
基礎研究班

個別性

教育評価 Mini-CEX/CbD



実際の訓練場面:Mini-CEX



実際の訓練場面：指導内容確認・SV

ディスカッション

- ・直後に10分程度
- ・実施の背景等を確認
- ・良かった点, 改善のポイントをフィードバック

新人セラピスト：訓練内容の記録

フィードバック：CbD

- ・実際の記録をみながら一緒に確認
- ・15分以内

学会発表

2019年度リハビリテーション部 学会発表					
学会名	開催地	開催日	発表者	科	演題名
第4回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会 北海道支部学術集会	札幌医科大学	2019/5/11	川中 拓摩	理学療法科	筋強直性ジストロフィー(MyD)に対する排痰補助装置(MI-E)の効果
第50回北海道作業療法学会	ロイトン札幌	2019/6/8-6/9	北村 晃次	作業療法科	当院回復期病棟における自宅退院因子の検討-自宅退院とサ高住退院の比較から-
第18回北海道病院学会	ロイトン札幌	2019/7/6	安岡 采耶	理学療法科	ニーズと治療のズレに難渋した大脳皮質基底核変性症の経験
第70回北海道理学療法士学術大会	帯広市民会館	2019/6/22-23	石橋 徹一	理学療法科	悪性腫瘍切除術後の二次的障害に脊髄性筋萎縮症の合併疑いで著しい機能低下を呈した症例への理学療法介入について
第69回日本病院学会	札幌コンベンションセンター	2019/8/1~8/2	三野 恭兵	理学療法科	免荷式トレッドミル歩行練習が服薬調整後のパーキンソン病患者に対する歩行と姿勢に及ぼす効果
			竹下 知	言語療法科	吸引ラインを使用して発声訓練をおこなった気管切開患者2症例
			齊藤 潤	言語療法科	当院言語療法科で実施した“働きやすさ調査”
第9回日本ロボットリハビリテーション・ケア研究大会	札幌国際ビル	2019/9/21-22	浅野 綾花	理学療法科	HONDA歩行アシストを使用し歩行訓練を行った症例の検討
第7回日本運動器理学療法学会学術大会	岡山コンベンションセンター 他	2019/10/5-6	三野 恭兵	理学療法科	Th12-L2 椎体圧迫骨折の受傷部位と足圧中心の関係—回復期病棟入院患者を対象に—
リハビリテーション・ケア合同研究大会2019	石川県立音楽堂 他	2019/11/21-22	桂川 和也	作業療法科	当院の回復期病棟退院患者における住環境整備状況の調査と整備着目点の検討
			荒田 遥	理学療法科	入院時の栄養状態がADLや退院先に与える影響-回復期病棟に入院する整形疾患の特性-
第61回全日本病院学会	名古屋		森川 佳菜	作業療法科	町内会での活動を通じた病院の在り方～地域リハビリ健診の導入と反省～
第27回日本慢性期医療学会	大阪国際会議場	2019/12/3-12/4	三和 成美	作業療法科	利用者ニーズを生活リハビリで実現する -介護医療院で入浴支援した一事例-
溪仁会グループ 研究発表	札幌コンベンションセンター		久保 智香	作業療法科	環境設定により離床範囲が拡大した前頭葉機能障害患者への関わり
			長谷川 晴菜	作業療法科	超高齢期の重度認知症患者の在宅支援 一誤りなし学習の試みー
			廣澤 桃	作業療法科	シーティング・環境設定により食事姿勢が改善した高齢脳性麻痺の一症例
			小路 英俊	作業療法科	生活期の患者様を支援するためのリハのあり方とは

※ 2019年度実績

地域に向けた活動

- ✓ 認知症カフェ
- ✓ 認知症サポーター養成研修
- ✓ リハビリ健診
- ✓ 災害ボランティア活動
- ✓ 医療公開講座

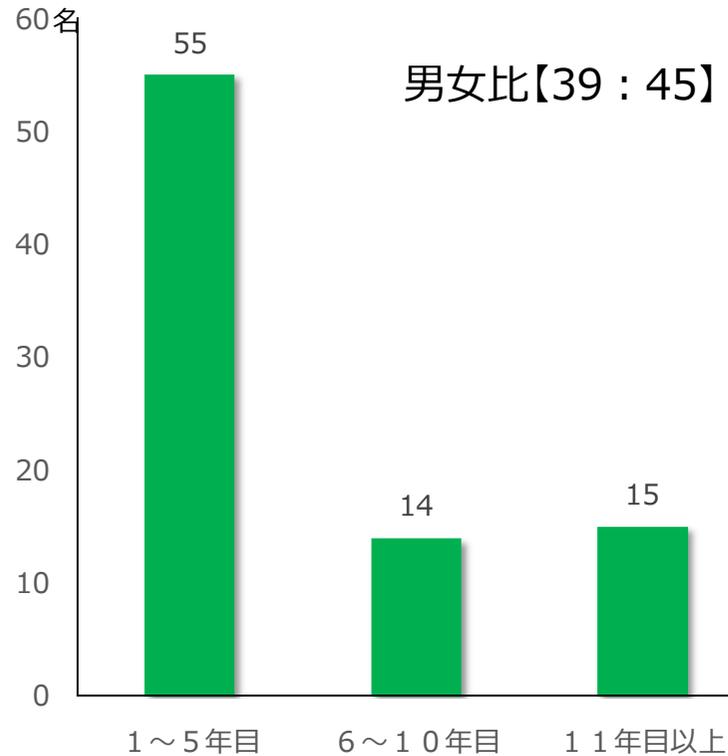


理学療法科の紹介



男子会

経験年数別スタッフ数



卒業校一覧

- 岐阜保健短期大学
- 青森県立保健大学
- 群馬パース大学
- 埼玉県立大学
- 東北文化学園大学
- 東京都立保健科学大学 (現:東京首都大学)
- 札幌リハビリテーション専門学校
- 札幌医学技術福祉歯科専門学校
- 北海道リハビリテーション大学校
- 札幌医学技術福祉歯科専門学校
- 札幌医科大学
- 日本医療大学
- 札幌医療リハビリ専門学校
- 北海道医療大学
- 北海道文教大学
- 北都保健福祉専門学校
- 北海道科学大学
- 北海道大学
- 北海道千歳リハビリテーション大学

理学療法科の設備

リハビリテーション室は病院全体で5か所を有し、全てに平行棒やプラットホームを完備しています。その他にも外来リハ室や評価測定室があります。



評価測定室：より再現性の高い評価が実現できます

徒手筋力測定機器



足圧分布測定システム



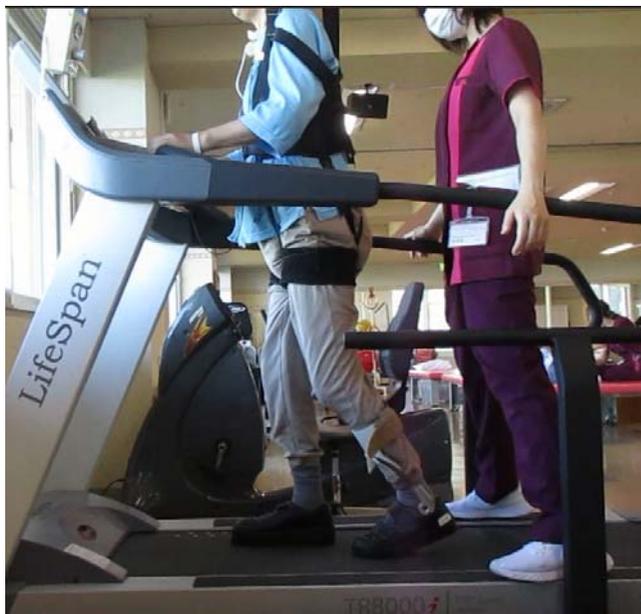
重心動揺計



リハビリテーションの実際 — 運動療法、装具療法 —

Body-Weight Supported Treadmill Training (BWSTT)

免荷装置を使用することで転倒リスクを軽減し、ダイナミックな運動を実践することができます



ブレースカンファレンス

脳血管疾患の患者さんへ装具を処方することはスタッフ1名あたり1件/年も満たしません
少ない貴重な機会を共有するためブレースカンファレンスを開催しています
また複数名で検討することで、より適切な装具を処方できるように取り組んでいます¹²

リハビリテーションの実際 — 物理療法、呼吸理学療法 —

総合電流刺激装置



超音波治療器



スパイロメーター



カフアシスト



コンフォートカフ

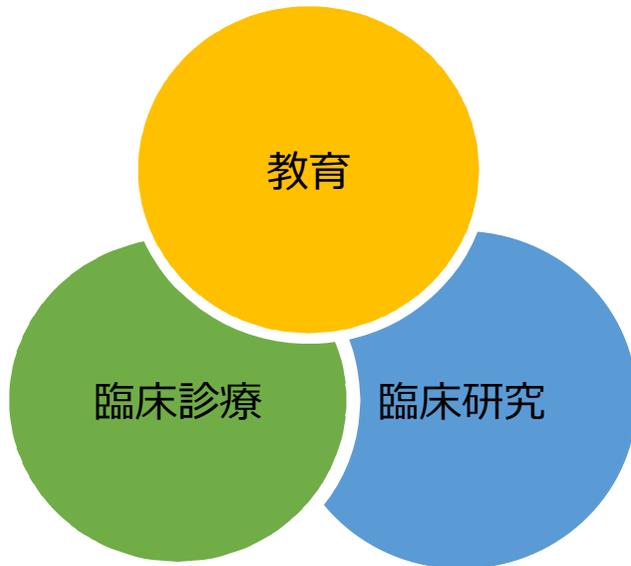


物理療法機器は徒手療法、運動療法の効果を高めてくれるツールです。
当院では積極的に投資し使用しています。

痰の喀出や換気能力向上のため神経筋疾患や閉塞性肺障害の患者さんに対して使用しています。作業療法士や言語聴覚士等、多職種で使用することで肺炎予防や呼吸不全の予防へ寄与しています

理学療法科の臨床診療・教育・研究

『日々の患者さんのために』

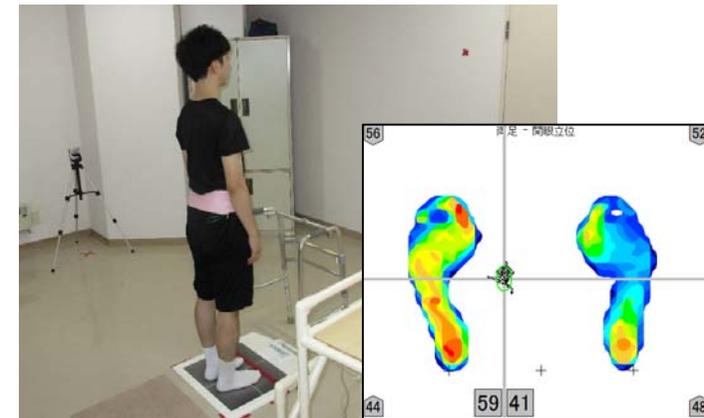


『これからの患者さんのために』

企業と連携したセミナーの開催



客観的データを用いた効果判定



入職早期から客観的なデータを用いた臨床実践や症例検討会を積極的に行っています
また日常診療における知見やデータの積み重ねが臨床研究へ繋がるように支援しています